

「就職難の中、『ITパスポート』に 人気が集まっています」

昨年「ITパスポート」という名の国家資格が誕生、社会人や高校・大学生にウケているという。そしてこの受験講座として「老舗」のアイテックが注目されている。

「ITパスポート」とは、かなり専門家向けだった既存の「情報処理技術者試験」のいわばエントリー版で、ITの人材の裾野を拡大したいという国家戦略的観点から新設されたもの。一般人も取っ付きやすい「味付け」となっている。

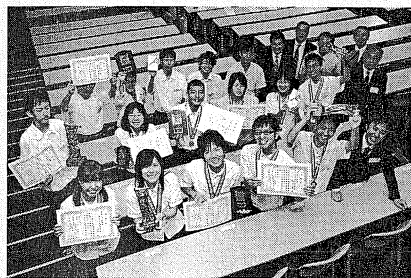


アイテック社長
土元克則

試験内容はシステム関連を問う「テクノロジ系」と、企業業務、経営戦略、システム戦略、開発技術などの「ストラテジー系」、そしてプロジェクト・サービスマネジメントの「マネジメント系」と、多岐にわたる。

「いわば、ビジネスマンとして総合的な知識を備えている、というところをある程度証明できる資格と云っていいでしょう」と、アイテック社長の土元克則氏は、

「有望株」の予兆を感じ取る。事実人気も上々らしい。



同社は高校生向けの「情報処理選手権」にも協賛(写真は今年の優勝者たち)

試験は年2回行われるが、半年で7万人が挑戦するという。

「当初半年で4万〜5万人と想定していましたが順調な滑り出しでしょう。就職難の中、有利な資格とばかりに就職活動の前に取得しようという動きも出ています。まだ誕生したのが昨年なので「先駆的に」という思惑もあるでしょう」と

と土元氏は手応えを感じる。

30年弱の「過去問の蓄積」が 圧倒的な強み

さて、冒頭で同社を「老舗」と表現したが、

「教育はもともと民間がやるべき」という話を持ち上がり、いわば「払い下げ」が27年前に行われたのですが、その際入札で資格を取得したのが当社。つまりIT技術者教育では1番の古株と言っているでしょう」

と土元氏は、背景を語る。それだけにITパスポート受験向けに同社が提供するエラーニングサービスは、競合他社を凌駕する「強み」を備える。要するに「演習問題の蓄積」だ。

「演習問題をたくさん行うことが合格の近道です。しかも当社には情報処理技術者試験から続く27年もの歴史があり、過去の問題が1万数千題も蓄積されています。ITパスポートの出題はかなり細分化されていますが、それぞれに対応した『引き出し』が他社よりも圧倒的に多いので柔軟に対応できるのです。特に初めての人には「これくらい勉強すればいい」と的確な指示ができます」

と土元氏は絶対の自信だ。